

診療所の病棟ラウンジに、大きくカラフルに「幸せな死とは」と書かれた紙が貼ってあります。以前に DPC ホスピス支援の会の総会があり、その時のシンポジウムのテーマでした。普通の医療機関ならば「死」は忌み嫌うものであり、ましてや堂々と掲示するようなものではないでしょう。それがなんの違和感もなく貼り付けてあることが玉穂ふれあい診療所の特徴かもしれません。

「死をタブー視しない」ことが最近の風潮かもしれません。高齢化社会の中で、年老いて亡くなっていくことが当たり前の日常茶飯事となっています。「どのように最期を迎えるか」「どのように看取るか」が社会の関心事となっています。

認知症で物事の判断ができなくなっていくうちに、まだ話せるうちに、最期とその後始末について家族で語り合うことは大事なことだと思います。



医療法人どちペインクリニック
理事長 土地邦彦



皆様のご協力により、ホスピス祭りの収益から一部をカンボジアと被災した熊本県に支援金をお渡しすることができました。ありがとうございました！

編集後記

今回のホスピス祭りのテーマ「輝け!いのち 友だちの友だちは友だちだ～つながる心つなげる想い～」テレビでの祭リアピールの際、「友だちの友だちは他人じゃないの」というツッコミを受けましたが、いいえ!断じて、私たちは大きな声で「友だちの友だちは友だちだ」と言います。だって、この祭りを通して私たちは本当に多くの方とご縁を強く感じていますから…
今年も、ホスピス祭りが多くの来場者とボランティアの方の支援の中、盛大に行われました。本当にありがとうございました。

医療法人どちペインクリニックのホームページを絶賛更新中!
URL:<http://www.dpc-hos.or.jp>

＝第15回ホスピス祭り＝
「輝け!いのち」友だちの友だちは友だちだ!
～つながる心 つなげる想い～

梅雨前の五月晴れ!天までも味方して第15回ホスピス祭りが 2500人もの大勢の参加者 そして汗を流して楽しく しかも必死に頑張ってくれた250人の実行委員の尊いコラボレーションで 有意義な1日を過ごすことができました。

15回積み重ねてきた実績と 毎回の反省をもとにして 少しでもより確実な内容にしようと 事前の実行委員会を開いてきました。

当日の心のこもった飲食や遊休品・野菜等のバザー セラピードッグと触れ合ったり こどもコーナーの体験コーナー クラシックや合唱・弾き語りなどのイベント等 各部門の活気は お祭りのテーマである「友だちの友だちは友だちだ!」にふさわしく つながる心と心 そしてつなげる想いで 大勢の方々の賛同と賛美をいただきました。

有り難いことに 実行委員も遠く県外から毎年参加してくれたり 暑い中を参加者の為に安全に駐車場係をつとめてくれたり いろいろな形でこのお祭りにかかわっていただき 一人ひとりが体と心を通してお祭りのテーマを体験できたと思います。

医療法人どちペインクリニックの医療方針である「患者のいのちに寄り添う」という大きな医療哲学は お祭りのテーマや参加者の支援の心や実行委員の魂など 総合的に融合し合って より一層確かなものへと燃え続けていくものと確信いたします。それが私たち支援の会の誇りでもあります。

このお祭りの後 このお祭りに関わった多くの皆様が 今度は日常においてテーマの浸透性を丁寧にそれぞれが実践していくことが 重要なことだと思います。

なお 皆様方にご協力いただきましたバザー等の売り上げの利益の一部は 熊本地震災害の対応医療チームとカンボジア小学校建設運動チームに寄付させていただきましたことをご報告いたします。

あらためて ご協力ご支援いただきました皆様方に感謝申し上げますとともに これからも支援の会共々 医療法人どちペインクリニックに対して 暖かいご支援ご協力をお願い申し上げます。ありがとうございました。

医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会

代表 吉田 永正



ホスピス祭り参加者の声

アイセイ薬局玉穂店へ今年の1月から赴任し、ホスピス祭りの参加は今回が3度目となります。赴任当初、不安だらけの毎日でしたが玉穂ふれあい診療所の方々は患者さんだけでなく薬局にも気遣いのある対応を普段からしていただきとても感謝しています。

土地先生をはじめ玉穂ふれあい診療所のスタッフの方々は祭りの準備の段階から成功に向かってさまざまな意見を出し合うなど一体感があり、また誠実に「いのち」と向き合って活動されておられます。その姿勢に私は圧倒され魅力を感じています。皆さんと一緒に活動させていただくことで私は薬剤師として患者さんとのように接し、向き合うべきなのかなど学ばせていただくことが多くあります。まさに医療を通じて地域の人達との信頼が形となって現れたものが、このホスピス祭りなのだと感じました。

年々進化しているホスピス祭りの勢いに置いていかれないよう来年以降もアイセイ薬局スタッフのボランティアを更に募り盛り上げていきたいと思います。私自身も「現状維持は衰退だ」という気持ちで日々の業務に努めてまいります。

アイセイ薬局玉穂店 薬剤師

吉田 直城さん



幼稚園児の元気あふれる歌で始まった 15 回目のホスピス祭り。私は初めて参加させていただいたのですが、沢山の方々の笑顔を見ることができ、また今回のテーマ「友だちの友だちは友だちだ」のように多くの人とふれあうことも出来ました。

お祭りの準備は、みなさんととても忙しそうでしたし、私自身もほんの少し忙しかったです。大きな机を移動させたり、バザーに出品する品を運んだり、野菜に値札を貼ったり…。お祭りを成功させるために全員で一生懸命になることはとても楽しかった反面、緊張もしました。

お祭りが始まってからは、チェロやヴァイオリンの演奏を聞いたり、健常者と障がい者が一つになって演じる山の都ふれあいコンサートを見て高校生ながらに感動しました。また、岩崎けんいちさんと一緒に歌った「輝け!いのち」は、お互いが知らない人同士でも、みんなが一つになれた気がしました。

来年また、お祭りに参加して新しい人と出会い、たくさんの笑顔が見たいです。ありがとうございました。

駿台甲府高校 3年

栗山 姫奈さん



昨年に引き続き、ハンドマッサージ・フットマッサージ・メイクで出店させて頂きました。スタッフの方々、そしてボランティアの皆様のお祭りにかかる想いをひしひしと感じながら、そこにいてだけで温かいエネルギーと底知れぬパワーを頂くことが出来ました。今年は、仲間のセラピストも 10 名一緒に参加し、沢山の方にマッサージやメイクで喜んで頂けて大変嬉しかったです。

マッサージを通して、その方の人生に触れられる事や肌と肌の触れ合いの中で目の前の方と心から繋がれる事はセラピストとしての喜びです。ホスピス祭りに集まる皆様がエネルギーで愛に溢れていて、その場にいてだけでセラピスト全員が何とも言えない温かい気持ちになりました。

時間やお金をかけてもボランティアとして参加したいと思える価値がこのお祭りにはあると思います。沢山の大切な事を気づかせて頂けます。毎年、このお祭りに参加させて頂ける事が有難く、楽しみになっています。また来年是非参加させて頂きたいと思います。

本当にありがとうございました。



美容家

志田 さおりさん



ありのままの輝き

ホスピス祭りに今年初めて参加させていただきました。ホスピスのイメージとは程遠い、活気のある風景にびっくりしました。玉穂ふれあい診療所との出会いは、以前に音楽療法の研究会で長田統括看護師長にお話しいただいたことです。患者さんに対する熱い思いと、地域医療にかける強い意志が素晴らしいと敬意を持っておりました。

1981年、今から36年前の国際障害者年に発足した山の都ふれあいコンサートは県のイベントとして障害児者の詩に一般から曲を募集して発表してきました。障害を越えて音楽を通してつながっていきこうというのが目的です。

今回のホスピス祭りでは、昨秋、みんなで作り上げたオリジナルミュージカル「幸せの森」の抜粋を、再演しました。

いつでもすべての力を出し切る彼らはさすがです。まっさらな気持ちで自然に素直に表現でき、表現上の意図も思惑も構造も、ずっと、飛び越えて、最も自分らしく遊びます。「自分」とは、「自然」の「分身」という二つの言葉を合わせたものだとなると、彼らはどんな場所でもその場の空気をさらっと受けとめ、その一瞬一瞬に生き、幼子の心で、そのエネルギーを周りに放出しているように見えます。その一瞬、その場がすべて!というように。力まず(りきまず)ずっと力を抜いて、真っ直ぐな表現の在り様は、まさに、ありのままの輝きであり、人の気持ちをくすぐるのだらうと思います。

あの会場にいた多くの皆さんの暖かい拍手が、私達を支えていました。子供たちを見守りながら非日常を楽しむお母さんたち、大人たち、見つめる聴衆の皆さんの温かいまなざし、その一時が、音楽によって、時に愉快地、時に悲しく、そこに居合わせたみんなをつないでいきました。

人は生き、そして死にます。宇宙物理学者の佐治晴夫氏は『時間』はないのだ」「でも、いま、この瞬間を駆け抜けていく時間を感じることができる」「生きていく上で一番大切なことは今しかないということに向き合うことだ」といっていました。

人生最後の時に患者さんに細やかに寄り添い、お世話いただける玉穂ふれあい診療所は、大きな拠り所です。これからも息長く発展していったほしいと心から願っております。私も音楽を用いて、患者さんたちと交流させていただけたらうれしいです。



山の都ふれあいコンサート実行委員
山梨音楽療法研究会 会長
山本 久美子さん



山の都ふれあいコンサートを観て

良い天気の中、汗をかきながら自分たちの出店を終え、少しホッとした中での「山の都ふれあいコンサート」。出番をまつ子供たちの緊張と楽しみの混ざったキラキラした表情を見ただけで、私の心は惹かれてしまいました。そして始まったステージ。力強い発声で物語を導いていく兄妹・なめらかなダンスで魅了する森の精達・あふれる太陽のような笑顔や歌声で楽しそうに踊る動物達・心躍るメロディのピアノ演奏・最高に輝く表情の手話の方・そしてそのステージを穏やかな表情で手拍子を交えて見守る会場のお客さん達。まるでポカポカとした陽だまりのように会場全体が穏やかな空気に包まれ、一つになりました。

生き生きとした歌やダンス・演技に、素直に感動をおぼえました。さらに、実行委員として私達を引っ張ってくれた先輩の「最高でしょ!最高だよね!」というウルウルした瞳。いつの間にか私の眼からも涙が溢れていました。普段から「超」が付くほど泣き虫な私ですが、その時の涙はとてとても温かく、心の中までほんわかと癒される涙となりました。

あの時間皆さんと同じ空間にいられたこと、ご縁に感謝です。またいつの日か山の都ふれあいコンサートのステージを観て、前向きなパワーをいただける日を楽しみにしています。その時は私も、可愛い動物達からの種を、未来に向かって勢いよく撒きます♪

玉穂ふれあい診療所 看護師

天野 江里香

